

# 事例発表

## 市民が市民のためにわかりやすく作った 日野市財政白書 <東京都日野市>



高尾 満  
日野市企画部財政課

皆さん、こんにちは。東京都日野市から参りました高尾と申します。

5時間かけて参りましたので、まず日野市の簡単な説明をさせていただきたいと思います。皆さんは東京都といいますと、新宿とか六本木、そういうところをご存じでしょうが、なかなか日野市というのは知っている方が少ないと思いますので、最初にPRをさせていただきたいと思います。

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、広さは都内で

6番目。多摩川と浅川が流れ、南部には多摩丘陵という地形です。東京のイメージとは違って、自然豊かなベッドタウンです。人口は17万人、まだ区画整理事業が進捗中ということなどもあり人口は増加傾向にあります。日野市は、新選組の副長・土方歳三、六番隊長・井上源三郎の生地であり、毎年、土方歳三の命日前後に新選組まつりを行い、全国から多くの方にいらしていただき盛り上がっています。また、日野宿本陣は、都内に唯一残る本陣として、新選組のファンの方


『地方行革をともに考えるシンポジウム』説明資料

「市民が市民のためにわかりやすく作った日野市財政白書」について

2007. 10. 31  
日野市企画部財政課  
主査 高尾 満

1

日野市の紹介



- 『東京のへそ』に位置  
東京のほぼ中央に位置し、市域は27.53km<sup>2</sup>(都内26市中6番目)
- 『緑と清流のまち』  
北部に多摩川、中央部に浅川の2つの1級河川が流れ、南部には多摩丘陵があるなど、自然豊かなベッドタウン
- 『新選組のふるさと』  
江戸時代には、甲州街道「日野宿」として栄え、新選組鬼の副長・土方歳三、六番隊長・井上源三郎の生地  
都内に唯一残る本陣(名主は歳三の義兄・佐藤彦五郎)である日野宿本陣をはじめ、新選組ゆかりの史跡が数多く残る
- 『ランキング』(日経グローバル・日経パソコン)  
子育て環境...全国第2位 行政サービス度(総合)...全国第38位  
自治体電子化セキュリティ部門...全国第3位  
e都市ランキング...全国第19位

2

発表の流れ

1. 取組の背景
2. 取組の内容
3. 取組中の課題・問題点及びそれらへの対処方法
4. 取組の効果
5. 住民の反応
6. 今後の課題(アドバイス等も含めて)
7. PR

3

取組の背景

☆平成11年2月『財政非常事態宣言』

- ・税収が前年比 12億円減収
- ・財政調整基金残高 3.8億円
- ・主要基金総残高30億円



日野市広報 1999/2  
日野市広報 2002/5/1号

4

には馴染みの深いところですが、ランキングにおいては、子育て環境、行政サービス、電子関係においてかなりの評価をいただいております、子育てに関しては全国2位というランキングになっています。

さて、発表に移りますが、今回の発表は背景、内容、取り組んでいく上での課題、問題点、対処方法などのほか、その効果、住民の反応がどうだったかについてもご説明させていただきます。

現市長が就任してすぐ、財政非常事態宣言を行いました。税収が前年比12億円減収、基金も底をつき、このままでは日野市がまずいだろうということで、市報に財政非常事態宣言を掲載しました。時を同じくして、市の第4次基本構想・基本計画である「日野いいプラン2010」の策定が始まり、公募市民145名、職員32名の合計177名で、安心・活力・ふれあい・うるおい・スリム・未来の六つの部会に分かれてスタートしました。今回お話しする「健全財政を考える会」はスリム分科会に属し、意欲的な市民の方の積極的な参加に基づきワーキングチームが発足いたしました。

このワーキングチームの動きによって、平成13年3月、第4次基本構想・基本計画「日野いいプラン2010」ができました。市民行動プロジェクトである「健全財政を考える会」は、八つほど立ち上がったプロジェク

トの一つです。2010プランプロジェクトが終わった後も、財政課、企画調整課を行政の窓口にも、市民20名と協働して日野市の財政のあり方や方向性を考える活動を行ってまいりました。

活動の目標は、次世代に極力「負の遺産」を残さないために、行政は行政として、市民は市民として何ができるかということ、それぞれの立場から互いに考え、活動をしていこうというものです。活動内容は、お互いの勉強の中から得られたものを、広報、提案、検証していくことにより市民の意識を少しずつ高めていこうというものです。

まず、平成14年5月、市民財政レポートとして広報に財政報告を掲載。「日野市の財政大ピンチ！借金約1,000億円！」という記事で、「健全財政を考える会」が作成したものです。その後、市長から「市民の視点で考えた財政白書を作ってみてくれ」という要請を受け、今回の財政白書を作ることとなりました。こうして17年6月に財政白書が完成。その後はマスコミからも多く問い合わせをいただきました。資料8に載っていますのは朝日新聞の「列島360(さんろくまる)」です。おそらくこの記事がもとで、今回私が呼ばれているのかなと思います。

なぜ、財政白書を作ったのか。

**2010プランワーキングチーム発足**

- 平成11年5月発足(公募市民145名、職員32名 合計177名)
- 検討内容は、『第四次基本構想・基本計画』
- 6つの分科会にて活動(安心・活力・ふれあい・うるおい・スリム・未来)
- ※『健全財政を考える会』はスリム分科会

↓

- 平成13年3月  
第四次基本構想・基本計画『ひのいいプラン2010～ともに創りあげるまち～』策定
- 健全財政の位置付け(健全財政に絞って表記)
- 【柱】参画と協働のまちづくり(10本のうちのひとつ)
- 【方向】1. 参画と協働のまちづくり 2. 市民本意の行政運営
- 【施策の展開】1. 市政への市民参画の推進 2. 健全財政の推進
- 【基本施策】1. 市民一人ひとりが財政に関心を持ち参画しよう 2. 健全な市政を推進しよう

5

**『健全財政を考える会』の発足**

- ★平成13年6月  
スリム分科会のメンバーが中心となり、その発展的組織として市民行動プロジェクト『健全財政を考える会』発足
- ※市民と市が協働で、日野市の財政の状況やあり方を評価・検討し、財政健全化に向け行動する組織。  
(市民:20名、行政窓口:財政課、企画調整課)
- ★会の活動目標  
「次世代に極力、負の遺産(借金)を残さない」ように、今の生活や行政を見直し、活動すること。
- ・市民は、自分ができることは、自分でやる。
- ・行政は、自分のやるべきことに見極めて、効率的にやる。
- ★活動内容:健全財政に向けた、広報、提案、検証  
市民一人ひとりが、家計と同じくらいに市の財政についても関心をもつように、日野市の財政状況を広報すること(仲間づくり)  
市の行財政を分析し、健全な財政に向けた提案をすること  
市の行財政改革計画の推進を市民の立場から協力すること

6


**活動状況**

- 平成14年 5月 日野市広報に財政報告を掲載、市民財政レポート発行
- 平成15年 8月 日野市立病院の財政状況調査
- 10月 公民館での市民向け説明会開催
- 平成16年 1月 日野市役所 管理職向けに「健全財政を考える会」活動報告会
- 平成16年 5月 日野市長から、市民の視点から見た「日野市財政白書」作成の要請
- 平成17年 2月 日野市第三次行財政改革大綱策定に市民委員として参加
- 平成17年 6月 市民が市民のためにわかりやすく作った「日野市財政白書」を完成

7

**活動状況**

- 平成17年 7月 日野市長への完成報告会実施(読売、日経、ガバナンス、日野CATV等で公表)
- 平成17年 8月 日野市第三次行財政改革大綱案の中間報告会
- 平成17年10月 東京都市町村企画研究会第2ブロック会議で説明
- 平成19年 3月 「日野市財政白書」(18年度版)完成
- 平成19年 7月 朝日新聞記事「列島360」に市民の財政白書の記事に掲載



2007 7/15 朝日新聞掲載記事

8



財政用語の意味がわからなかったり、財政の全体像がつかみにくかったりすることから生じる誤解や先入観があり、市財政への理解は妨げられていました。そのことを市民の目線でわかりやすくすることによって、関心を持っていただいたり理解していただけるような財政白書を作ることとしました。

自分たちの生活と市の財政がいかに深く密着しているか、日野市は豊かな自治体であると思われるが借金はどのくらいあるのかといったことを、グラフや図を多用化することで、市民によりわかりやすく伝えられるよう工夫を重ねていきました。

自分の生活に置きかえたほうがわかりやすいという

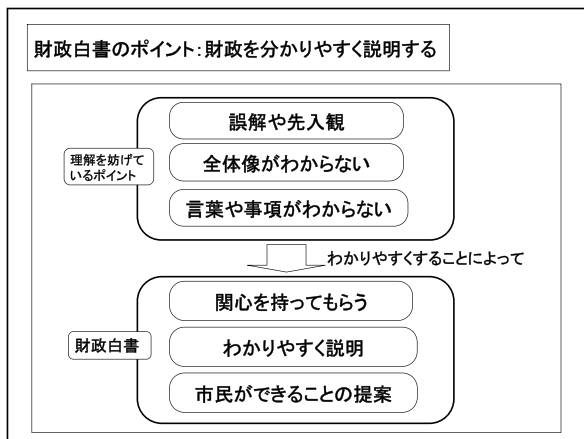
ことで、市の財政を鍋に例えて書くこともしました。給食経費についてはレストランに例えて説明しました。

さらに、市民行動の提案として、市民の側から見て何ができるのか、例えば、「日野市の中で買い物をしよう」とか「いらないサービスはいらないと言おうね」というような形で、市民による市民ができることの提案も財政白書には盛り込んでいます。

取組の中で大変だったのは、やはり行政と市民の認識の違いによる意見の隔たりでした。行政が考えると当たり前ではないかということも、市民からはわかりづらいといった指摘もいただきました。

こうした課題について活動を通じてどう解決していったのか。

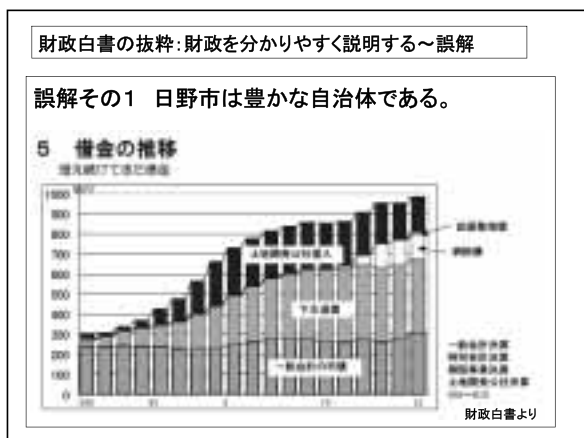
とにかく話し合うことしかありませんでした。まず、お互いの考えを聞いて認識を共にすることが必要ということで、おおむね月1回、35回の合同勉強会を開催しました。市からは必要な財政状況や人件費、給与の問題、市立病院の健全化の資料など、行政から出せる資料については積極的に出すと同時に、健全財政のメンバーの方にとってわからないことについては、素直に腹を割って話し合いました。それが35回という回数にあらわれ、合同勉強会をしていく中で、意見の隔た



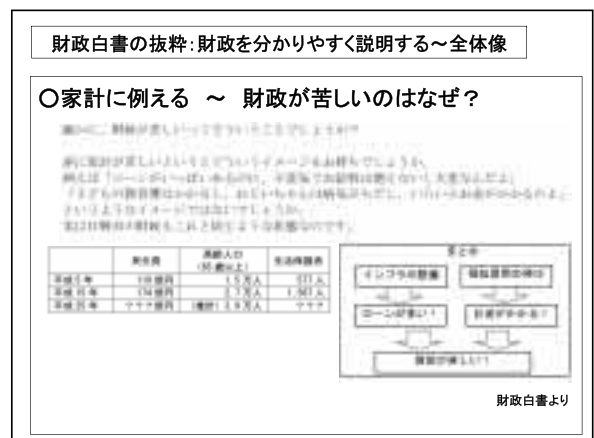
9



10



11



12





### 財政白書の抜粋：市民行動の提案

- 一、日野市で買えるものは日野市で買おう
  - その一歩が減税につながります。
- 一、地元企業の商品を優先して買おう
  - 税関増徴の減税、商社増強が雇用創出に。
- 一、ゴミを減らそう！
  - ゴミ処理にはゴミ焼却炉も国の借金でまわっているんですよ。
- 一、知らないサービスは聞いてみよう
  - 無料ならそのサービスは使えますよ。
- 一、健康で楽しい生活を
  - 健康であることは人生の幸せと健康増進につながる。
- 一、税金をちゃんと払おう
  - ちゃんと払えば、税引の減額が！ 税金減額申請も忘れずに！
- 一、税金の使い道をしっかりと監視しよう
  - 市民が税金の使途を、しっかりと監視する。

財政白書より

17

### 取組中の課題・問題点及びそれらへの対処方法

#### 課題・問題点

健全財政を  
考える会

1 行政と市民の認識の違いによる意見の隔たり  
ex) 起債について安易に『良い起債、悪い起債』  
というわかり易い仕分けが安易になされる

行政

2 行政上の説明の不備への反省  
ex) 市民の目線からの視点の欠如  
行政としては、当たり前なことでも、市民  
はわからない。

↓  
解決策は？

18

### 取組中の課題・問題点及びそれらへの対処方法



解決策は？

とにかく話し合うこと！！



具体的には・・・

☆わかり合うためには、お互いの考えを聞き、  
認識をともにすることが必要

- ⇒ 概ね月1回のペースで35回の合同勉強会を実施
- ⇒ 財政白書を発行するまでに『健全財政を考える会』  
発足後2年半

19

### 取組の効果

- 1 当初のねらいについては、十分な話し合いを重ねたことにより達成したとの認識
- 2 市民と行政に対する認識の改善
- 3 行政の市民目線での情報伝達の必要性和意識改革

### 住民の反応等

- 1 財政白書への反響大  
(市民を含め、他の市町村からの問い  
合わせやマスコミからの取材多数)
- 2 市の財政状況への関心の高まり



財政白書授与式：市長と記念撮影

20

ご清聴ありがとうございました。

日野市ホームページ  
<http://www.city.hino.lg.jp/>

21